

大阪 迫る「黄信号」

毎日新聞 11 日朝刊 1 面は、「東京最多新たに 243 人 コロナ感染増でも旅行推奨ちぐはぐ」と大きな見出しで伝えている。リード途中から一感染拡大への懸念が強まる中、政府は 10 日、イベントの開催制限を緩和する「ステップ 3」への移行を予定通り実施。観光産業を支援する「GoTo トラベル」事業も 7 月 22 日から開始すると発表し、対応のちぐはぐさが際立っている。

社会面では、大阪迫る「黄信号」と大きく伝えている。写真は「大阪モデル」に基づく 10 日の感染状況である。記事を抜粋して紹介する。

府は 3 日、社会経済活動の維持を重視し、大阪モデルの指標や基準を従来よりも緩和。主に感染防止の徹底などを求める黄信号を点灯しにくくする形で修正していた。

府内では都道府県間の移動自粛が全面的に解除された 6 月下旬以降、感染者数が増え始め、7 月 7、8 日には 2 日連続で 10 人以上の感染が確認された。9 日は 30 人と一気に 3 倍に膨らみ、10 日も 20 人超に。うち経路不明者はこの 1 週間平均で 6 割を超え、府は夜の繁華街を中心に感染が広がっているとみている。

大阪モデルの新基準では、①新規の感染経路不明者（直近 7 日間平均で 10 人以上）②経路不明者数の前週比（同 2 倍以上）③直近 7 日間の累積新規感染者数（計 120 人以上かつ後半 3 日間で半数以上）の 3 指標を満たすと、黄信号が点灯する。府によると、10 日の 3 指標に対する状況は①9.43 人②2 倍、③計 105 人で後半 3 日間は 62 人。11 日に新規感染者数が 32 人以上になり、うち経路不明者が 31 人以上であれば全指標で基準を上回るという。

府の専門家会議のメンバーの倭正也・りんくう総合医療センター感染症センター長は、若者を中心に感染者数の急増を続ける東京都と傾向が酷似している点を指摘。「大阪モデルの黄信号を今すぐにも点灯して府民に警戒を求めないと、関西圏でも感染が一気に拡大しかねない」と訴えた。府幹部や専門家が最も警戒するのは、重症化しやすい高齢者に対する感染の広がりだ。重傷者病床が一気に埋まれば医療崩壊が現実味を増す。

5 日にも、吉村知事はなぜ「大阪モデル」チェンジ繰り返すのか、と題してレポートした。その時も「基準が甘くなって対策が遅れることが心配だ」という倭センター長の発言を紹介した。甘くした基準でも「大阪モデル」に黄信号が灯ろうとしている。大阪市廃止の住民投票どころではない。吉村知事、松井市長、維新に猛省を求めたい。

(2020 年 7 月 12 日)

指標	警戒・非常事態の要請基準	10日の状況
① 新規の感染経路不明者数	10人以上	9.43人
② 感染経路不明者数の前週比 ※前週の同じ曜日との比較	2.0倍以上	2.0倍
③ 直近7日間の累積新規感染者数	計120人以上かつ後半3日間で半数以上	105人(62人) ※カッコ内はうち後半3日間
④ 重症者の病床利用率	70%以上	1.6%

①②③をいずれも満たせば警戒の「黄信号」。黄信号点灯から25日以内に④を満たすと非常事態で「赤信号」

※大阪府の資料を基に作成。①②は直近7日間の平均値で算出